

教育学・心理学

key word

- カリキュラム・マネジメント
- 教師教育
- 食育カリキュラム
- 住育カリキュラム
- 地域ぐるみの学校防災カリキュラム開発



岸田 蘭子
Ranko Kishida

教職大学院
特任教授

【専門分野】

- ・教科教育学(家庭科)
- ・学校経営論・教師教育
- ・カリキュラム・マネジメント

【略歴】

- ・1983 京都教育大学教育学部卒業
- ・1983 京都教育大学教育学部 附属京都小学校教員
- ・1997 京都教育大学大学院教育学研究科修士課程修了
- ・1998 京都市立小学校教員
- ・2011 京都市立広沢小学校校長
- ・2014 京都市立高倉小学校校長
- ・2014 関西福祉大学非常勤講師
- ・2018 滋賀大学教育学部非常勤講師
- ・2020 京都市教育委員会教員養成支援室専門主事
- ・2020 大阪教育大学非常勤講師
- ・2021 滋賀大学教育学部教職大学院特任教授・京都市教育委員会学校指導課参与

【所属学会】

- ・家庭科教育学会
- ・日本教育方法学会
- ・日本カリキュラム学会
- ・関西教育学会

【社会活動】

- ・文部科学省検定教科書「新しい家庭5・6」編集委員
- ・NPO 法人 SEEDsAsiaテクニカルアドバイザー

【その他】

- ・「小学校ではもう遅い」(PHP 出版、2017、単著)
- ・「資質・能力を育てるカリキュラム・マネジメント」(日本標準、2017、共同監修)
- ・「先生も子どもも楽しくなる小学校家庭科」(ミネルヴァ書房、2020、単著)
- ・「学びをつなぐカリキュラム・マネジメント」(滋賀大学教員免許更新新講習2021)

【代表的な研究テーマ】

- 学びをつなぐカリキュラム・マネジメントの実践
- 地域の特徴を生かした食育や住育・防災カリキュラムの開発

課題解決に役立つシーズの説明

次の時代は、持続可能な社会の構築に向けて、すべての人がよりよく生きる”ウエルビーイング”をめざす教育が求められています。これまでも、日常生活と結び付けたカリキュラム・マネジメントの実践によって地域の特徴を生かした教育課程の開発を行ってきました。社会に開かれた教育課程の実現は、学校を取り巻くステイクホルダーとのパートナーシップは欠かせないものです。これまでの経験や実績を生かしながら、学校や地域の特徴を生かして専門家や、研究者、行政、NPO 法人などと協力したカリキュラムの開発支援を行っていきたくと考えています。



＜食育カリキュラムの開発＞

令和2年度の農林水産省の「食育白書」にも掲載された、京都市立高倉小学校の食育カリキュラム「高倉スタンダード」です。学校運営協議会、地域の専門家や商店街、料理人、農家などが関わって小学校期6年間の食育に視点をのいた各教科横断型のカリキュラム開発を行い、地域の食材や食文化を継承する持続可能なモデルを提案しました。日本の伝統文化を中心に「食をいつくしむ」姿を追究してみることを全国で展開されることを願っています。



＜住育モデルの開発＞

地域の住文化は、それぞれの土地の気候や風土に合った住まい方の知恵や工夫で成り立っています。環境への配慮や、住まいに関わる文化の継承は、持続可能な社会の構築をめざす教育の中でも大切な内容です。地域の良さや知恵や工夫から、未来の生活のあり方を考えていく姿勢を育みたいものです。これは京都の京町家をモデルに自然を活かした住まい方の知恵や工夫を学ぶために開発した指導者向けの住育指導ガイドです。全国各地でこのような地域の住まいに目を向けた住育の工夫ができると考えています。



＜地域ぐるみの防災教育カリキュラム＞

学校はコミュニティの中心としての役割を果たします。常に学校防災は地域とともにどうあるべきか教育課程と関わらせて考えていきます。防災支援 NPO 法人とともに国内外の学校防災カリキュラム開発の支援を行っていきたくと考えています。

企業・自治体へのメッセージ

- ・食育や住育など日常生活に関わる視点でのカリキュラム共同開発・共同研究を希望します。
- ・食育カリキュラム研究や住育モデル開発にご協力いただける企業(自治体)を探しています。
- ・地域ぐるみの防災教育の取組やカリキュラム開発・研修の支援を行っております。